# 光栄の森

平成25年7月　毎月1日発行　第61号
発行者　光栄プロテック　吉竹

## 7月を迎えるにあたって

□

代表取締役　三田雅憲

遅い梅雨が訪れ、すっきりしない季節が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？上半期が4月からスタートし、あっという間に、7月に突入しているというのが、社員みんなの感じではないでしょうか。

先日、当社の会長と久しぶりに現場へ行く機会がありました。心斎橋に建築中の某ブランドビルのエレベータに使用している、ステンレスブロンズメッキがところどころはがれているので塗装でごまかしてもらえないかという依頼でした。取引が、初めての会社でしたので、小さいおじいさんと小太りで頭のはげたおっさん2人がひょっこり、現場に行ったので『大丈夫か？この連中』というのが先方の初対面の印象だったと思います。

会長は、おそらくこの日の現場のために練った作戦で塗料を2種類作って持参していました。程なく作業に取り掛かり、即座に最初の2箇所の補修を完了させました。どこにはがれがあったのか分からないぐらい高度に補修されていました。これにはお客様も絶句でした。お昼前には、すべて完了し駐車場までお見送りしてもらい『すぐに支払いますので、取り急ぎ注文書を出します』と言ってくれました。職人冥利に尽きます。

車中、会長は盛んに『門前の小僧習わぬお経を読む』の話をされていました。仕事とは、教えてもらうのではなく、先輩がやっているのを盗んで覚えることだ。そういうやり方でないと本当にその人のものにならない・身につかない。ということを言いたかったのだと思います。OJTなどが流行っており、仕事に対してまだ教えてもらってないので分かりません的な発想が最近は、まかりとおっており、そのことに苦言を呈したのだと思いました。

次の日、その会社の担当者から「ゼネコンも『取り変えずにこの補修で良い』と言ってもらいました。」との電話も頂き、ともに喜びあいました。

私自身今回の現場作業で3つのことを会長から学びました。
一つ目は、狙った仕事をしっかりとイメージして細部まで練って取り掛かるということ。
二つ目は、仕事を進めている間のいろいろなプレス(障害)に対して自分のリズムや主導権を奪われないよう、握られないように集中してあたること。
三つ目は、現場などでは他の職人・社員(会社)がやっていることにも興味を持つ。そして、良いものは自分に取り入れること。

まだまだ、会長の足元にも及びませんが、本物を追求するためのイロハを学び、いつの日か当社が『小さくても存在感のある会社』になるよう心から念じました。工場のみんなも納期及び品質に関して死守して頑張っています。私も上半期終わりまでには、新たな会社案内の作成・ホームページ改訂・営業展開(特に見本市)・アクセスによる見積りプログラム作成・東京進出の足がかりなど会社の幅を広げる取り組みの目鼻立ちをつけたいと考えております。会長から学んだ、3つの教えを重ねてより一層飛躍できるように、今月も社員ともども頑張りたく存じます。